

## 第4章 「やまがた道の駅ビジョン2020」の基本的考え方

第2章における「道の駅」の新たな展開、第3章における山形県の「道の駅」現状と特徴・課題を踏まえ、本章では、「やまがた道の駅ビジョン2020」の基本的考え方を示す。

### (1) 基本目標

本県的高速道路整備率が8割となり、東京オリンピックが開催される2020年代初頭までに、山形らしい魅力ある「やまがた道の駅」を現在の18駅から30駅程度に増やし、活用することにより、観光振興、地域の産業振興等による『やまがた創生』に資する。

#### 【解説】

平成28年2月末現在、本県的高速道路の供用率は僅か60%であり、全国の84%、東北の83%に比べ著しく低い。しかし、その整備は、現在、急速に進んでおり、東京オリンピックが開催され、多くの外国人旅行者が訪日する2020年(平成32年)までに、整備率が80%に達する見込みとなっている。特に、福島～米沢が無料の東北中央自動車道で結ばれることから、本高速道路を使い、首都圏から本県及び北東北に向かう観光客が飛躍的に増加することが期待される。

その一方で、高速道路のIC間における観光地が素通りされてしまうことも危惧されることから、「道の駅」をインバウンド対応も含めた観光拠点として位置付け、高速道路の利用者をいったんIC近傍の「道の駅」へ誘導し、地域の魅力や情報をふんだんに発信することで、県内津々浦々の観光地を周遊観光してもらうことが必要である。

そのため、山形らしい魅力ある「やまがた道の駅」を近隣の他県並みの30駅程度に増やし、活用することにより、観光振興、地域の産業振興等による『やまがた創生』に資することを基本目標とする。

なお、人口減少対策としての『やまがた創生』に資する施策としては、観光振興、地域の産業振興のみならず、役場や診療所等が集積した“小さな拠点”(第5章P5-13参照)の形成、移住者対策、高齢者対策等の地域福祉の向上を目指すものも含まれる。しかし、本県には、これまで、地域福祉の向上に重点を置いた「道の駅」は存在せず、アンケート結果(第3章P3-4参照)より、地元住民より観光客をターゲットとした「道の駅」が8割強である。

そのため、本ビジョンでは、食産業王国であり様々な観光資源に富んだ本県の長所を最大限に伸ばすことを、「やまがた道の駅」を活用した『やまがた創生』の基本戦略とした。

ただし、本章(3)2)の【解説】や(4)5)で後述するように、地域福祉の向上のために、「道の駅」を活用することも推奨する。

## (2)「やまがた道の駅」の配置の考え方

「やまがた道の駅」の新設や移設に当たっては、主に、次の事項に考慮して配置を検討する。

- 1) 地域間のバランスをとること
- 2) 高速道路等からのアクセスがいいこと
- 3) 他の「道の駅」や類似の施設から一定の間隔を保つこと

### 【解説】

#### 1) 地域間のバランスをとること

平成 27 年 10 月 1 日現在、最上地方の「道の駅」は 1 駅しかないなど、地域間に偏り(アンバランス)が見られるため、できるだけ偏りを解消していくことを目指す。

東日本大震災以降、防災インフラとしての「道の駅」の役割が強く認識されており、「道の駅」をバランス良く配置していくことは、防災拠点の適正配置という観点からも重要である。

#### 2) 高速道路等からアクセスがいいこと

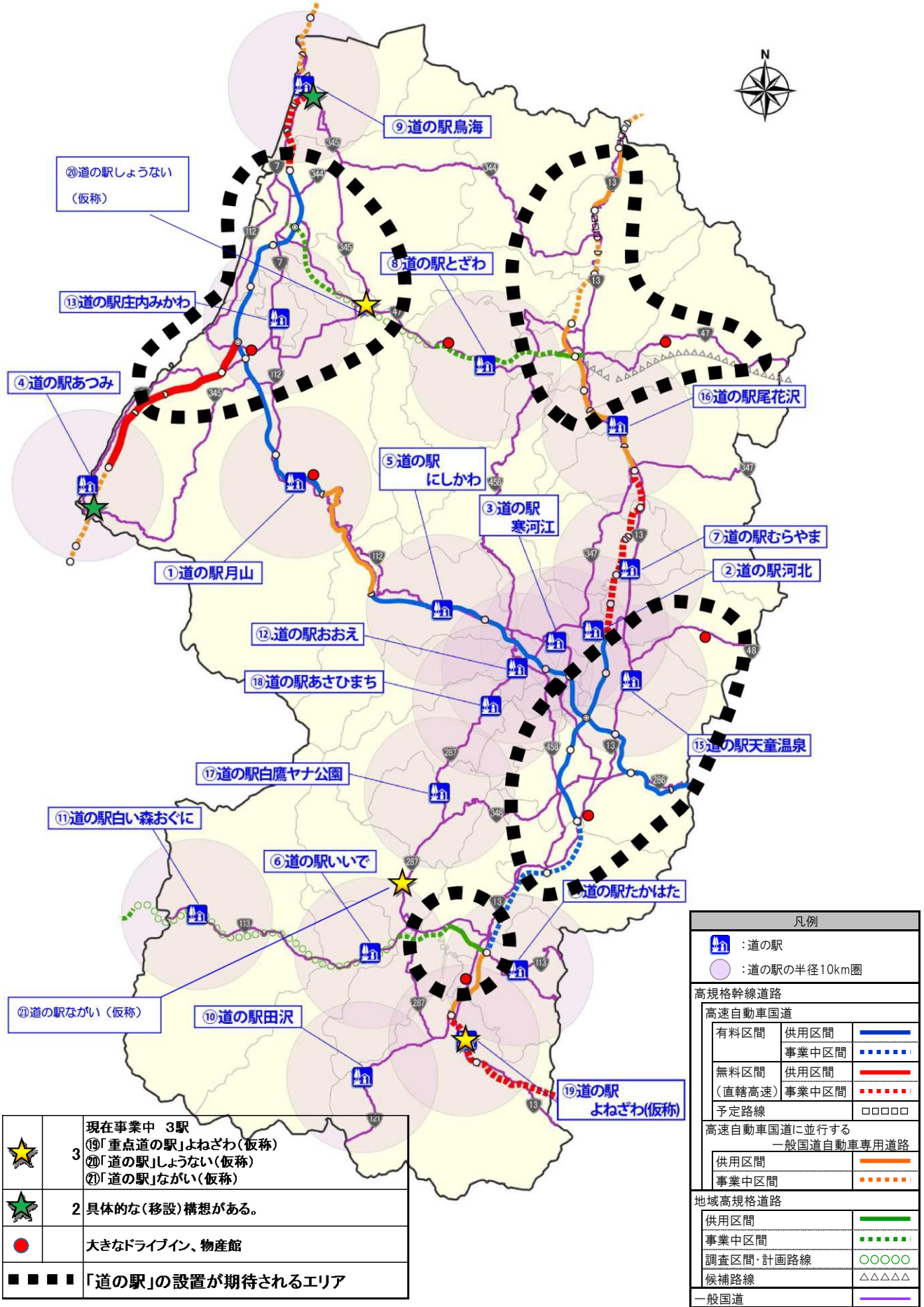
第 3 章で示したように、本県の「道の駅」は幹線国道に集中しているのが特徴である。今後、本県の高速道路網は急速に整備が進み、来県する観光客の利用も急増することが見込まれるため、無料の高速道路の休憩施設を兼ねた道の駅等、できる限り高速道路や地域高規格道路 I C 近傍に配置される「道の駅」が望ましい。

ただし、『やまがた創生』に資するため、人口減少対策の観点から“小さな拠点”を形成するなど、主として地域センター型(第 2 章 P2-8 参照)の機能を有する「道の駅」を中山間地等に整備する場合においては、必ずしもこの限りではない。

#### 3) 他の「道の駅」や類似の施設から一定の間隔を保つこと

「道の駅」同士が競合しないよう、「道の駅」の配置を計画する場合は、最寄りの「道の駅」と一定(できれば 10 km)以上の間隔を保つことはもちろん、「道の駅」と同程度の休憩機能を持つ既存の大型ドライブインや観光物産館並びに産直施設との位置関係にも十分に考慮する必要がある。

# 「道の駅」配置構想図



	3	現在事業中 3駅 ⑨「重点道の駅」よねざわ(仮称) ⑳「道の駅」しょうない(仮称) ㉑「道の駅」ながい(仮称)
	2	具体的な(移設)構想がある。
		大きなドライブイン、物産館
		「道の駅」の設置が期待されるエリア

凡例	
	:道の駅
	:道の駅の半径10km圏
高規格幹線道路	
高速自動車国道	
有料区間	供用区間
	事業中区間
無料区間	供用区間
(直轄高速)	事業中区間
予定路線	
高速自動車国道に並行する 一般国道自動車専用道路	
供用区間	
事業中区間	
地域高規格道路	
供用区間	
事業中区間	
調査区間・計画路線	
候補路線	
一般国道	

### (3)「やまがた道の駅」が目指すべき将来像（ビジョン）

山形らしい魅力ある「やまがた道の駅」が、2020年代初頭までに目指すべき将来像（ビジョン）は次の5つであり、これらを実現することにより、「まず寄ってもらい、次に巡ってもらう」ための「地域に根付いた」道の駅になることを目指す。

- 1)「山形らしい」基本機能を有する「道の駅」
- 2) 各々が独自性を持つ「道の駅」
- 3) 互いに連携する「道の駅」
- 4) 誰もが行きやすい「道の駅」
- 5) 誰もが参加できる「道の駅」

#### 【解説】

##### ○「まず寄ってもらい、次に巡ってもらう」

(2)の配置の考え方に基づき、(1)の基本目標で掲げた30駅程度まで「道の駅」の数だけを増やすだけでは不十分であり、観光振興等による『やまがた創生』に資するためには、「道の駅」を観光交流拠点として‘活用’するための戦略を持つことが必要である。

まず「道の駅」に寄ってもらうため、「道の駅」自体が魅力を持つとともに、次に県内津々浦々の観光地を巡ってもらうため、観光スポットに加え、優れた景観ポイントや地域の伝統・文化行事、体験農園などの地域の誇れる魅力を積極的に発信していくことが重要である。

##### ○「地域に根付いた」

「道の駅」は、地域外から活力を呼ぶ観光交流拠点である一方、設置主体である市町村が中心となり地域の産業振興や地域福祉の向上に貢献する場としての役割も有している。

「道の駅」を将来的に継続して活用していくためには、地域の人々から愛され支持されることが第一であり、そのため地域の課題やニーズを踏まえた機能の強化や、地域が主体となった運営体制の構築が必要である。また、「道の駅」が地域内外の人々の交流の場になるためには、「道の駅」が地域の人々としっかり繋がり、地域の様々な情報を手軽に発信できることが重要である。

##### 1)「山形らしい」基本機能を有する「道の駅」

- 「ひとにもくるまにも優しい休憩機能」、
- 「初めて日本、やまがたを訪れる人を助ける情報発信機能」、
- 「やまがたを発信し、新たな仕事を生む地域連携機能」、
- 「いざという時、頼りになる防災機能」

という4つの基本機能を有する「道の駅」を目指す。

なお、詳細は(4)「山形らしい」基本機能を参照のこと。

## 2) 各々が独自性を持つ「道の駅」

設置者である市町村や駅長等が中心となり、この「道の駅」でしか味わえない、入手できない、体験できないなど、各々の「道の駅」においてオンリーワンの取組みにより独自性を磨き、それを広く発信していくことで、各々が「行ってみたい道の駅」になることを目指す。

また、地方創生の観点から、各市町村において、主として地域福祉の向上等を目指す地域センター型(第2章 P2-8 参照)の独自性を持つ「道の駅」を整備することを推奨する。

## 3) 互いに連携する「道の駅」

山形県や山形「道の駅」連絡会が中心となり、本ビジョンに則り、「山形らしい」基本機能を底上げし、連携施策を展開することにより、「やまがた道の駅」全体としての魅力の向上とブランド化を目指す。

また、「道の駅」同士の連携に加え、県内の主な産直施設や観光案内所、大型ドライブインなどとも連携し、情報提供することにより、「道の駅」の空白地帯を補完するとともに、連携施策の相乗効果の発現を目指す。

## 4) 誰もが行きやすい「道の駅」

道路管理者や山形県が中心となり、案内標識の増設・改善等による高速道路等から最寄りの「道の駅」までの体系的な案内や、分かりやすいドライブマップの提供等を行うことにより、外国人を含めた来県者やカーナビを利用しない運転者など、誰もが、迷わずに安心して行ける「道の駅」になることを目指す。

## 5) 誰もが参加できる「道の駅」

設置者である市町村や駅長等が中心となり、「道の駅」を地域住民の雇用の場としてだけでなく、誰もが気軽に出品や情報提供などを行うことができ、企画運営へも参加できる仕組みを構築するなど、地域住民の交流の場として、地域全体で育て、造りあげる「道の駅」になることを目指す。

#### (4)「山形らしい」基本機能

『「山形らしい」基本機能』を次のとおり設定する。

##### 1) ひとつにもくるまにも優しい休憩機能

お年寄り、子供・赤ちゃん、外国人など全ての利用者にとって快適なトイレ環境を整える。

また、電気自動車を安心して利用できるように、EV用急速充電器を完備する。

さらに、車中泊の需要が見込まれる「道の駅」については、車中泊専用エリア（RVパーク）を整備し、ごみ投棄や電気の無断使用などの問題を解決する。

##### 【主な施策目標】

- |                      |    |     |   |      |
|----------------------|----|-----|---|------|
| ・ トイレの洋式化・多機能化       | 目標 | 3 駅 | → | 全駅   |
| ・ EV用急速充電設備の整備       | 目標 | 全駅  | → | 全駅   |
| ・ 車中泊専用エリア(RVパーク)の整備 | 目標 | 1 駅 | → | 10 駅 |

##### 2) 初めて日本、やまがたを訪れる人を助ける情報発信機能

インバウンド対応として、訪日外国人旅行者が無料でインターネットにアクセスし、必要な情報を取得できるようにするとともに、施設の案内表示の多言語化及び記号（ピクト）表示化を進める。また、土地勘がなく、特に雪国での運転に不慣れな旅行者に対して、豪雨・雪崩等による通行止めや、路面凍結・地吹雪等に関する情報を迅速に提供することにより、安心して運転できるようにする。

##### 【主な施策目標】

- |                    |    |     |   |    |
|--------------------|----|-----|---|----|
| ・ Wi-Fi環境の整備       | 目標 | 9 駅 | → | 全駅 |
| ・ 通行止め・路面凍結情報の情報提供 | 目標 | 9 駅 | → | 全駅 |

##### 3) やまがたを発信し、新たな仕事を生む地域連携機能

山形の最大の強みである「食」を提供するため、伝統野菜等、各地域ならではの食材を出品するとともに、「道の駅井」やオリジナルのジュース・スイーツなど、共通して取組むテーマを設定し、各駅が独自商品を開発・提供していく。

##### 【主な施策目標】

- |                   |    |      |   |      |
|-------------------|----|------|---|------|
| ・ 伝統野菜の出品         | 目標 | 3 駅  | → | 10 駅 |
| ・ 地域食材を使ったメニューの提供 | 目標 | 12 駅 | → | 全駅   |

県産品や6次産業化によって新たに生産される商品を県外客に提供する地域アンテナショップを兼ねた物販を展開する。また、県産農産物等を使用した人気が高い土産品（菓子）の県内製造割合が低いことから、その割合を増やす。

##### 【主な施策目標】

- |                |    |               |
|----------------|----|---------------|
| ・ 物販における県産品の割合 | 目標 | 全駅で県産品（菓子）5割超 |
|----------------|----|---------------|
- 県産品の定義：県内工場で生産された完成品（山形県 商業・県産品振興課 HP）

全ての「道の駅」において観光案内所(第5章 P5-9 参照)を設置し、全県の観光案内を分担して行うことにより、観光拠点としての「道の駅」の地位を確立し、旅行者が必ず立ち寄るようにする。

また、ゲートウェイやインバウンド観光の拠点となる「道の駅」では、広域案内や外国人向け案内を実施する。

#### 【主な施策目標】

- ・ 観光案内所の整備 目標 10駅 → 全駅

以上の取組みの他、「道の駅」を“地域を知る学びの場”として捉え、地域の歴史、文化、産業等に関する情報を積極的に発信する。

#### 4) いざという時、頼りになる防災機能

「山形県強靱化計画」においても、「道の駅」の防災拠点化を推進していくこととしており、地域防災計画に位置付けられた「道の駅」については、その役割を確実に発揮できるよう、必要な防災設備等を整備する。

#### 【主な施策の例】

- 避難所の例：災害用トイレ・自家発電装置等の整備、毛布・食料等の備蓄
- 防災拠点の例：耐震貯水槽、ヘリポート(防災対策離着陸場)等の整備

#### 5) 機能の多様化

～「やまがた創生」に資する独自の取組みの展開～

上記1)～4)の機能に関わるもの以外で、県が策定した「やまがた創生総合戦略」や各市町村が策定した地方創生総合戦略に位置づけられた施策を実施する場として、例えば、主として地域福祉の向上等に資する地域センター型(第2章 P2-8 参照)の「道の駅」等の整備を推奨する。

#### 【取組みの例】

- 直売所やレストラン、加工所、体験農園等の6次産業化の取組みが集積する「アグリランド構想」における「道の駅」の活用
- 公民館、学校、空き家等を活用し、地域課題の解決を図る多様な活動の拠点形成における「道の駅」の活用
- 元気な高齢者が活躍できる活動拠点・居場所の創出における「道の駅」の活用
- 「道の駅」内もしくは周辺に、診療所や高齢者福祉施設等の生活サービスを集約し、地域の課題を解決する“小さな拠点”(第5章 P5-13 参照)の整備

#### 【多様化する「道の駅」の機能(イメージ)】

